
ゆきそら

羅々美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆきそら

【Zコード】

Z2948D

【作者名】

羅々美

【あらすじ】

ある日、2人は出会った。寒い冬の日のことであった……。
この出会いは、よかつたことなのだろうか?この2人の恋のお話。

プロローグ（前書き）

「ゆきぞら」を頑張って、更新していくのよろしくお願いします！
表現が下手かもしれません、最後まで見てつけてください。

プロローグ

やわらかな、青田にやまは降り積もつてゆく。

なんのこもしなこや。

寒い、ふゆに降り積もるや。

けれど、あたたかい。

とねこ、とねこ、やうから振つてへるや。

プロローグ（後書き）

見てくださいって、ありがとうございます。こんな、下手な小説を見てくくれて、とても感謝します！では、次もよろしくお願ひします。

第一話* かれ*

青白いゆきみちの上を欠伸しながらのびびりと歩く。
手も、足も、冷たいのはこの青白いゆきみちもあるが、このワン
ピース姿のせいでもあるだろ。ひ。

丁度、公園にさしかかった。

その公園には、ブランコも滑り台もあり、おもてのこに開わらず、子
供達が戯れてくる。

そんな子供達を見ていると、口元が緩む。

私はずっと続くゆきみちを歩いてくる。

田の前には、信号がある。

信号は、赤い光を放っていた。

私は、すぐ横にあったボタンへとゅつゝつと、手を伸ばす。
ボタンのすぐ前で手を止める。

信号は、未だに赤い光を放っている。

信号は、もう青い光を放っている。

信号が変わり、私は前へと歩き出した。

そつと、横を見てみる。

「あつ、」

そこには、かれがいた。

かれは、私にそっと微笑んでくれた。

「ねえ、君名前は？」

甘い声で私に聞く。

息を飲んだ。

体中の寒さはどうかくさえてゆく感じがした。

「……みつきで」

風がびゅうびゅう吹き荒れる。

重い空気を割るよつて。

「みつきちゃんか、みつきひやん家はどう？」

「あります」

「わつか、じゃあつむぐる？」

かれは、わたしにこまねきしながら笑った。
子供のように、むじやきに笑った。

私は、それに抵抗できず「くつと頷くだけだった。

信号が青い光りを放つて いるがたまにいろがなくなる。
もう、赤になる合図だ。

かれは、私にそっと微笑み、私の手を取り走った。

第3話* 違い*

彼の手は温かかった。

手を握られながら、冬のゆきみちを走つてゆく。
見渡す限り、クリスマス。
クリスマス一色で、ショーウィンドーにはケーキがたくさん並んで
いる。

そこには、山のようなひとじゅみ。

幸せそうに微笑む人々だらけだった。

「ねえ、」

私は、丁度、サンタのいるまん前でかれの服の袖引っ張った。

かれは、私の手を離さず、私の顔を見ててくれた。

「なあに?」

「あなたの名前はなに?」

「明津」

明津の甘い声が響いた。

明津の指には、“mika”と彫つてある指輪がキラキラと光っていた。

胸がずきゅんとした。

「行こうか？」

私は頷くだけ。

明津と歩く街。

ひとりで歩く街とは違つみたい。

温かい右手。

目の前は、クリスマス一色の幸せな街並み。

横には、明津がいる。

さつきまで、とても冷たかったこのゆきみが。
でも、今は温かい。

ショーウィンドーの中にキラキラと輝く指輪を見つけた。

明津がつけているのと似ている指輪。

他の店にも、何個かおなじようなのがある。

でも、これだけは違うように見えた。

「いいな

不意に出た言葉。

「え？ あの、指輪欲しいの？」

「…………い、いらなによ」

手を交互に振る。

でも、そんな言葉とはウラハラに田は指輪に行く。

「やっぱり欲しいんじゃ…………」

「こりないか」

私は、明津の手をぎゅっと握って強く引っ張った。

さつきより、温かさが感じる。

2人分の温度。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2948d/>

ゆきぞら

2010年10月11日02時55分発行